桂川物語

～その歴史と文化

桂川を歩く

自然や文化財をめぐるモデルコース

Aコース（半日）　長崎街道と歴史ロマンを巡る

❶王塚装飾古墳館：王塚古墳(発)→
JR桂川駅→

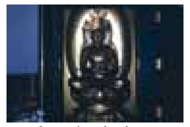
JR桂川駅

王塚くり（菓子）

古代夢（酒）

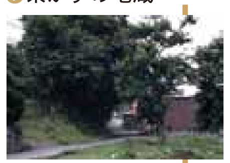
古代夢（菓子）

❷王塚くり（菓子）、古代夢（酒・菓子）→
❸山頭火が泊まった後藤屋跡→



❹豆田大日如来堂→

❺豆田天満宮(天神山古墳)・
小追分石→



長崎街道→
（通りには新茶屋等の街道の由来を示す地名が残る。また、一里塚跡には、殿様の腰掛け石の言い伝えもある）
❻大平古墳→

❼茶かすの地蔵→

❽瀬戸の渡し→

❾合鴨家族古野農園→
❿金比羅山古墳→
王塚装飾古墳館（帰路）

Bコース（約2時間）　土居と秋月街道を巡る

❶桂川町役場(発)→

❷土居の地蔵様→
❸秋月街道→

❹筑前竹槍一揆の門→

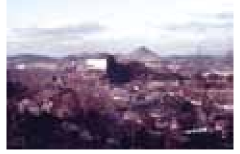
❺土居の観音様→
❻けいせんとれたて村→
❼ひまわりの里
天然薬石「光明石の湯」→

❽桂川公園
（戦没者平和慰霊碑）→
桂川町役場（帰路）

Cコース（半日）　土師の里を巡る

❶弁財天様(発)→

❷長明寺→



❸平山鉱業所跡→
❹和風ランプ
シェード瓜生→
❺旧道（趣のある家など昔の雰囲気が残る）→

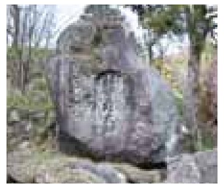
❻種因寺→
❼うみがらす工房
Jaunty Works→
❽土師窯→
❾土師老松神社→

❿上嘉穂炭鉱跡捲上台座

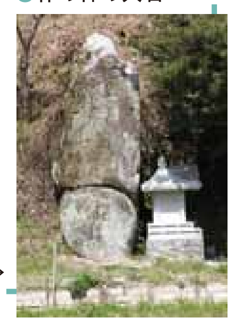
Dコース（約1時間半）　奥座敷内山田へ足をのばす

❶内山田天神社・サヤンカミ(発)→

❷ニノ尾の大石→



❸作の神の大石



※見学地については、地元の人たちの生活の場所でもあります。マナーを守り、迷惑となるような路上駐車（特に長時間）及び建物内への無断侵入や撮影等、トラブルとなるような行為は御遠慮ください。

福岡県
桂川町

お問い合わせ先
王塚装飾古墳館
TEL0948-65-2900・FAX0948-65-3313
〒820-0603 福岡県嘉穂郡桂川町寿命376番地

王塚装飾古墳館　検索
http://www.town.keisen.fukuoka.jp/ouzuka/index.html
王塚装飾古墳館HP

発行元/福岡県桂川町　発行年月/平成24年3月

古代人の息遣いが聞こえてくる

町内を流れる泉河内川が古くは桂川(かつらがわ)と呼ばれていたことから、
その名がついたともいわれている桂川(けいせん)町。古代から始まる悠久の歴史を有しています。
そして、桂川町独自の数多い史跡や文化財が、現在まで脈々と保存継承されてきました。
その代表的なものが、国の特別史跡に指定されている王塚古墳です。
鮮やかな色彩が施された石室内の壁画や緻密で豪華な馬具などの出土品は、
日本有数の歴史的・文化的遺産として注目を集めました。
今でも古代人の息遣いが聞こえてくる桂川町。
その歴史と文化の再発見です。

CONTENTS(目次)

P 4-6 桂川の歴史をたどる

P 7-11 桂川の古代を体感する

P12-13 桂川の史跡を訪ねる

P14-17 桂川の伝統を楽しむ
祭り、伝統芸能、盆踊り

P18-21 桂川の生活を伝承する
年中行事、郷土料理、昔話

P22-23 桂川町案内マップ

裏表紙 桂川を歩く

※表紙の写真は、王塚装飾古墳館の文様万華鏡
※P2-3の写真は、王塚古墳の石室文様(レプリカ)

桂川の歴史をたどる1 原始・古代

十三塚遺跡・弥生時代の墓地群(土師一)

影塚横穴墓群・古墳時代(土師五)

明寺原古墳・古墳時代(九郎丸)

二塚横穴墓群・副葬品(銅釧)

縄文時代から始まる桂川町の歴史

桂川の歴史は、はるか原始時代にさかのぼることができます。縄文時代の紀元前約千年から三百年のものと推定される鏃(やじり)や石斧などの石器が、土居の宝塚遺跡から多数採集されているのです。一方、隣接する飯塚市の北古賀遺跡では紀元前五千年前のものと思われる土器や石器が出土しており、桂川でも、この当時からすでに人々が暮らしていたと考えられます。弥生時代に入ると、稲作技術の導入によって水稲耕作が開始されました。土師地区遺跡群では、その時代の住居跡や土器、石器、獣骨、果実の種など、多くの貴重な資料が発掘されています。続く三世紀半ば過ぎから七世紀末頃までが古墳時代。桂川でもその後期のものと思われる古墳が約二〇〇基発見されています。その代表的なものが王塚古墳です。

飛鳥時代(五九二年~七一〇年)には、条里制による富豪や有力寺社の農地開発(墾田)が急増しました。条里制とは、一町(約一〇九m)四方の区画を一坪とし、縦に六個並べて一条、横に六個並べて一里とした土地区画制度です。

土居の「二ノ坪」、「三ノ坪」、土師の「中ノ坪」など、今日でもその名残りがあります。また十世紀に書かれた「安楽寺(現在の太宰府天満宮)草創日記」には、桂川は安楽寺の荘園である「土師庄」として記録されています。

桂川の歴史をたどる2 中世・近世

西田地区遺跡群・中世の巨館跡(土師一・二)

一字一石塔・江戸時代

土居村名寄帳・江戸時代

寿命松並木・旧長崎街道「嘉穂史跡名勝写真帳」より

武家政権の支配と交換経済への変化

応仁、文明の乱から、豊臣秀吉の天下統一に至るまでの約百年間のいわゆる戦国の動乱は、この地方の歴史にもはっきりとみることができます。大内氏が北九州に進出し、その家臣である弘中氏、安富氏、河津氏らは、吉隈、土師、平塚、豆田に所領を与えられました。また、秋月種実は、毛利元就と組んで朝倉、嘉穂境の古処山城で大友勢と戦い、豊前北部を制圧して筑前に入り、四万騎をもって立花城を攻撃しました。秋月種実は、嘉麻、穂波両郡のみならず、田川、京都郡方面もほぼ制圧、支配しましたが、豊臣秀吉が島津征伐で九州に入った時、その大軍を見て降伏しました。

長年の戦乱の世が終わり、江戸時代に入ると世の中も落ち着きを取り戻しました。筑前国では藩領を十五郡に分け、それぞれの郡に郡奉行、大庄屋、村方三役などを置き、所領の統治を行いました。そして、農業の進歩と商品貨幣経済の発達に伴い、農村でも自給自足の経済から交換経済へと発展しました。ちなみに、元禄三(一六九〇)年の穂波郡の人口は二・七一四戸、一七・四五二人だったと「嘉穂郡誌」に記されています。

このように、中世から近世に及ぶ桂川の歴史は、武家政権による統一支配とともに変遷してきました。

桂川の歴史をたどる③ 近代・現代

坑内で・昭和40年代前半

旧桂川駅・昭和15年頃

桂川村役場の竣工・昭和2年

旧眼鏡橋・昭和56年(土師五)

石炭産業が終焉し、新たな町づくりへ

明治二十二(一八八九)年、全国で市町村制が施行されました。この改定により、当時の瀬戸村、寿命村、中屋村、豆田村、九郎丸村、土居村、吉隈村、土師村、内山田村の九カ村が合併し、桂川村が新たに誕生しました。

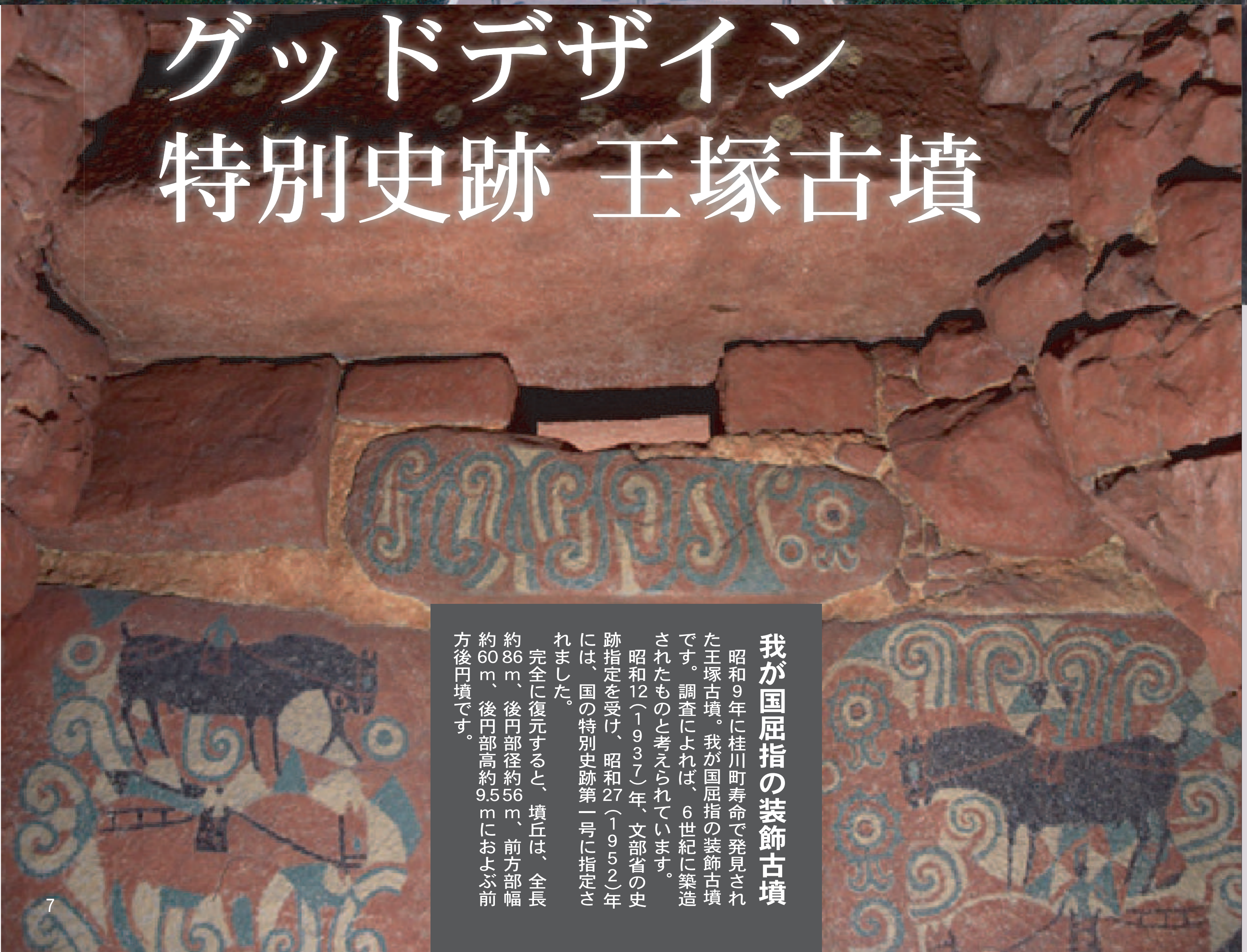
その後、町内の豆田・土師・吉隈の三地区で石炭採掘が始まり、蒸気機関の導入、火薬の使用、機械化で出炭量が大幅に増加、町は活況を呈しました。桂川村合併時の人口は三・一四八八人でしたが、大正七年以降は一万人を越え、嘉穂郡内屈指の大村となりました。

しかし、時代の流れとともに、エネルギー源が石炭から石油へと移行。昭和四十七年の平山炭鉱を最後に、町内の炭鉱すべてが閉山に追い込まれました。その結果、人口は激減、過疎化が進みました。石炭産業の終焉は、桂川町にとって大きな時代の転換期でした。

そのような経緯を経て、桂川町は今、農業や商工業の発展だけでなく、教育・福祉・コミュニティなどの生活環境や都市の整備といった総合的な変革を推進しています。古代のロマンがあふれ、長い歴史を育んできた桂川町。そして、平成二十二(二〇一〇)年、町制七十周年を迎えた桂川町は、「文化の薫り高い心豊かな町づくり」を基本理念に、活気ある新たな歴史をこれからも創造していきます。

桂川の古代を体感する

古代のグッドデザイン 特別史跡 王塚古墳



我が国屈指の装飾古墳

昭和9年に桂川町寿命で発見された王塚古墳。我が国屈指の装飾古墳です。調査によれば、6世紀に築造されたものと考えられています。

昭和12(1937)年、文部省の史跡指定を受け、昭和27(1952)年には、国の特別史跡第一号に指定されました。

完全に復元すると、墳丘は、全長約86m、後円部径約56m、前方部幅約60m、後円部高約9.5mにおよぶ前方後円墳です。

古代のグッドデザイン

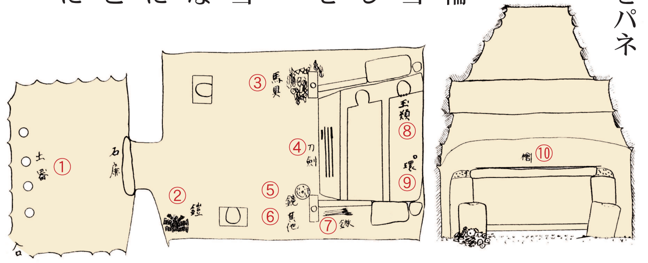
1 王塚古墳 出土品

出土品にみる高度な文化の存在

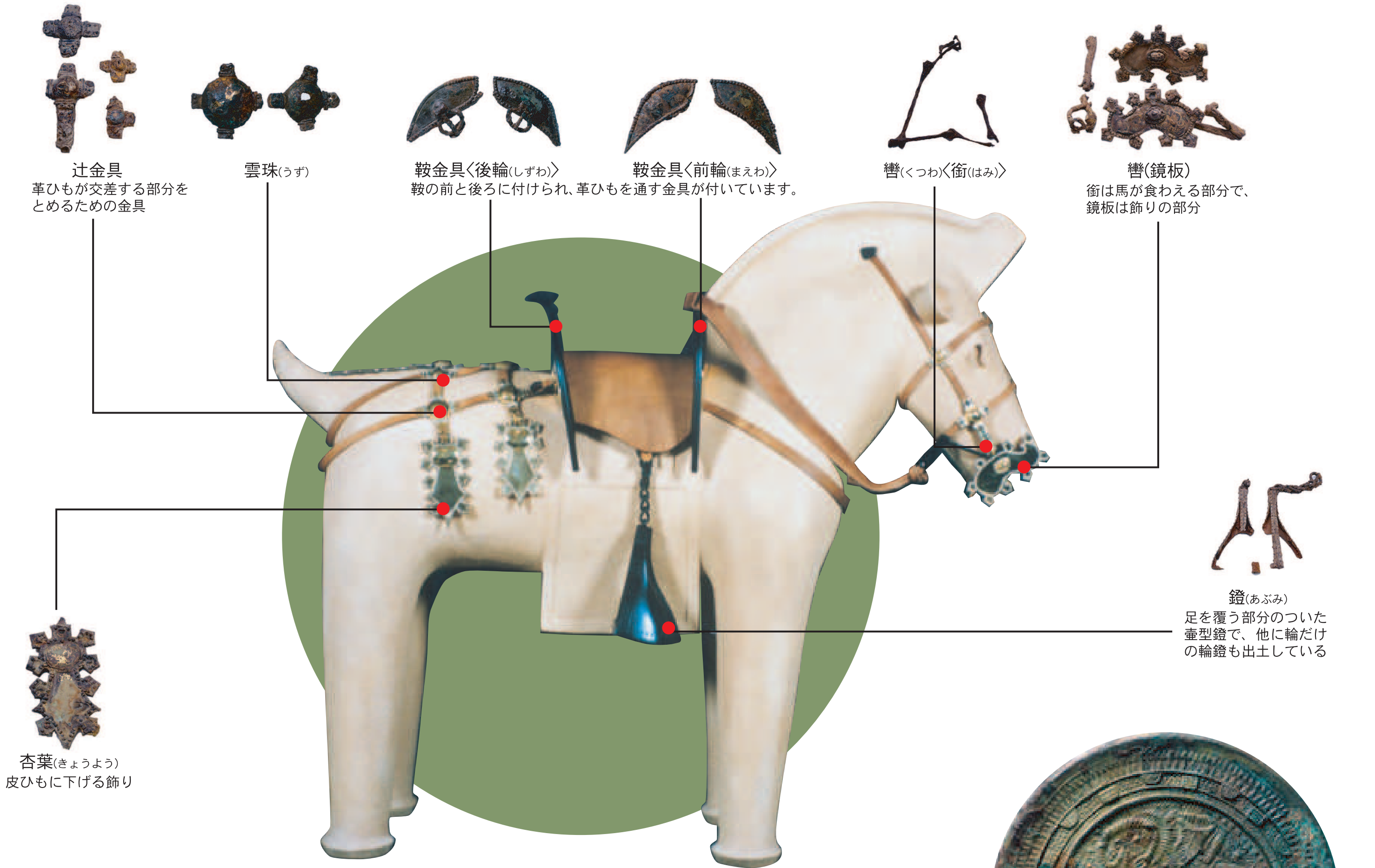
王塚古墳の内部構造は、遺体を納める玄室を有する横穴式石室で、この石室から数多くの装飾品、土器、武具や馬具などが出土しました。これらの品々は、現代でも十分に通用するグッドデザインです。その数は１００点を超え、現存するものは全て国の重要文化財に指定されています。

現在これらの副葬品は、京都国立博物館に保管されていますが、王塚装飾古墳館では、これらをパネルで紹介するほか、馬具類の一部と銅鏡をレプリカで展示、埴輪馬の置台に製作当時のままに復元した馬具を装着させています。

王塚古墳は、当時における高度な文化が桂川地方に存在していたことを知る手がかりになっています。



石室内遺物（副葬品）出土状況図（昭和10年福岡県報告より）
①土器②桂甲（けいこう）③馬具④大刀⑤鏡⑥その他⑦鏃（やじり）⑧玉類⑨環⑩鉾（ほこ）



金の耳環　銀の鈴

桂甲(けいこう)〈甲(よろい)〉の小札

土製丸玉

鉾(ほこ)・鉄の鏃(やじり)類

変形神獣鏡
（へんけいしんじゅうきょう）

須恵器・台付壷

須恵器・坏と蓋

須恵器・直口(ちょくこう)壷

埋木製切子玉　コハク製なつめ玉

須恵器・提瓶(さけべ)・高坏(たかつき)

古代のグッドデザイン

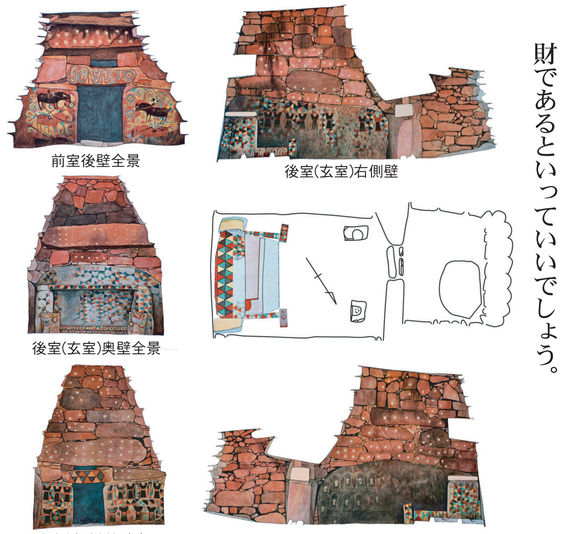
2 王塚古墳 装飾文

古代美術の最高傑作

墳墓の価値を高める壁画

王塚古墳の最大の特徴は、石室のほぼ全面に施された壁画で、墳墓の価値をいちだんと高めています。玄室に通じる左右の袖石には、赤色や黒色の馬が描かれ、そのまわりには蕨手（わらびて）文や同心円文、双脚輪状文が黄や緑で描かれています。日本原始美術作品の最高傑作のひとつです。玄室の左右側壁には、靭（ゆぎ、矢を納めて射手の腰や背につける細長い筒）や盾が、数多く描き込まれています。さらに前壁は、連続三角文や靭、大刀、石屋形の周辺には蕨手文や連続三角文で埋め尽くされています。

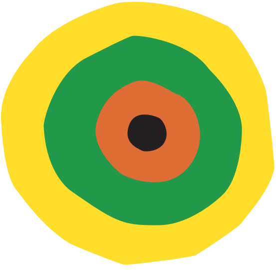
赤・黄・緑・白・黒の五色で描かれた王塚古墳内石室の装飾文様や色彩は、考古学的価値はもちろんのこと、美術史的にも大変重要な文化財であるといっていいでしょう。



石室内文様位置図
(原図・昭和15年京都帝国大学文学部考古学研究報告第15冊「筑前国嘉穂郡王塚古墳」)

蕨手文（わらびて）
蕨の形に似た渦巻き状の文様で、福岡を中心に九つの古墳で発見されています。

双脚輪状文（そうきゃくりんじょう）
うちわに長い柄をつけて貴人にかざすサシバとか南海産の貝をモチーフにしたといわれています。

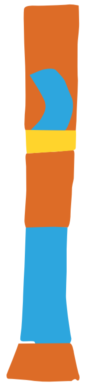

同心円文（どうしんえん）
円は太陽や鏡、弓の的など諸説があり、美しい幾何学文様です。

騎馬（きば）
死者の来世での乗り物か、来世への乗り物であったと考えられています。

盾（たて）
敵の矢を防ぐ盾の形は上下に開き、下は水平で上は円頭形になっています。

靭（ゆぎ）
矢を入れて背負うもので、上部には弓が描かれています。

三角連続文
死者を悪霊から守るための呪術的な意味があったと考えられています。


大刀
太い鞘（さや）をもち、柄には手を護る半円形の帯がついています。

古代のグッドデザイン ③

王塚古墳「発掘」物語

ツルハシの一振りが古代ロマンの扉を開いた

「我が国随一を誇る嘉穂の壁画古墳」の見出しで大きく報道された「王塚古墳」。その発見は、昭和9（1934）年9月30日夕暮れ近くのことでした。

石炭採掘による地盤沈下の復旧のための採土工事中、作業員のツルハシが大きな石に当たりました。その石を取り除くと、深くて大きな穴が見えたのです。ツルハシの一振りが古代ロマンの扉を開いた瞬間でした。

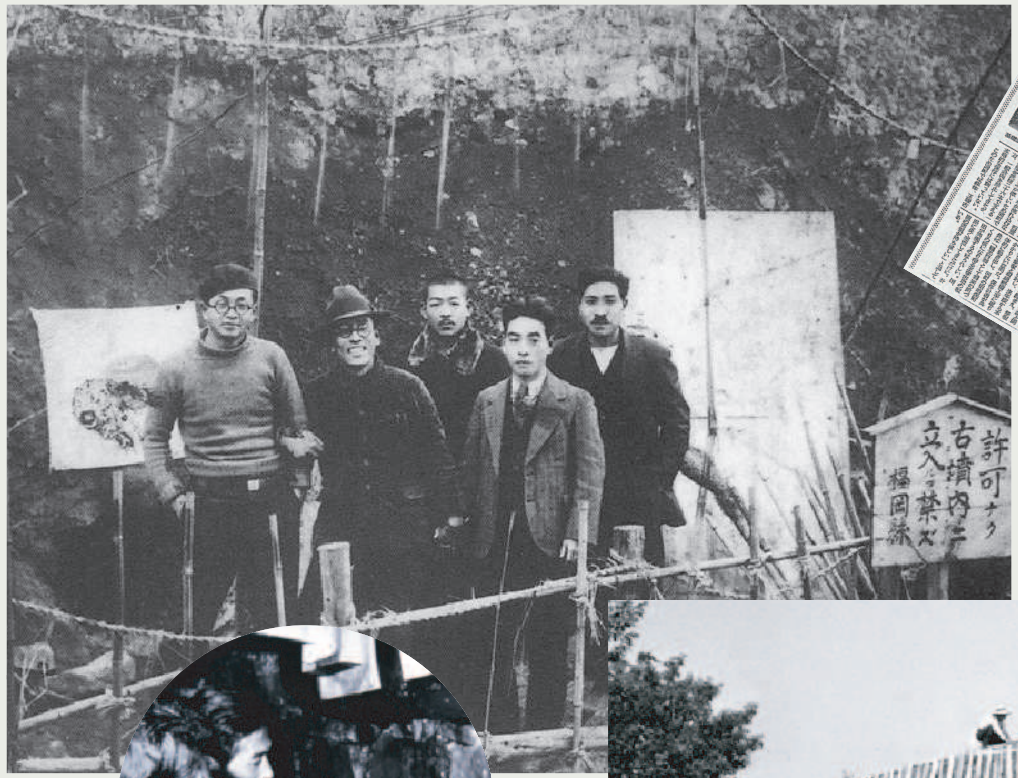
しかし、この「世紀の大発見」も、その後の保存管理は苦難の連続でした。装飾古墳の場合、発見された時が壁画の劣化の始まりで、特にカビと雨水の浸入は、保存上大敵です。放置しておくと、壁画の消失にもつながります。また、石炭採掘による地下の採掘計画など、古墳の崩壊が危ぶまれましたが、地元住民や古墳保存に強い熱意を持つ人たちの努力で、その危機を乗り越えてきました。

なかでも特筆すべきは、発見当時から献身的な努力を続け、考古学者や見学者のよき理解者としても知られた地元の村会議員、故西村二馬さんの存在です。戦後まもなく、石炭採掘を迫る炭鉱主との確執は凄まじきものでした。西村さんの娘である口石麗子さんは、次のように語っています。「父は責任感があり、人のお世話をよくする人でした。また壁画への想いも人一倍強かった。連日のように自宅に炭鉱推進派が押しかけ、気性の荒い男達も来たりして恐ろしかったのですが、父は、脅迫や嫌がらせにも屈することはありませんでした」。修理工事の際は、西村さん自ら農家に出向きムシロを借りて雨水を防いだり、消防のポンプを使って雨水を外に汲み出したりしたといいます。

王塚古墳は昭和27（1952）年、装飾古墳として国の特別史跡に指定され、昭和31（1956）年、出土品も重要文化財に指定されました。しかし、昭和42（1967）年に石材にヒビが入ったために、石室を見学中止にします。これをきっかけに抜本的な保存整備工事が始まり、平成5（1993）年に終了。現在、石室内は非常に安定した状態を保っており、毎年、春と秋に特別公開されています。

王塚古墳の環境整備開始を知らせる記事・昭和57年

福岡県社寺兵事課による調査。右端が西村二馬氏・昭和10年



装飾古墳保存対策研究会の現地調査・昭和47年

雨漏り防止のため墳丘の補修をする西村二馬氏・昭和36年

古代と現代を結ぶタイムカプセル

王塚装飾古墳館

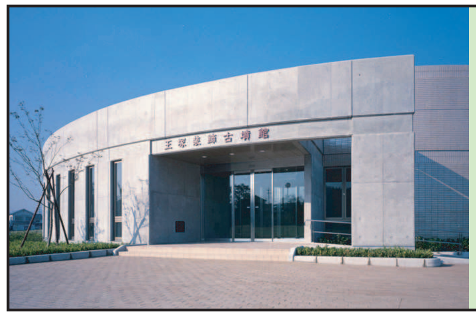
国の特別史跡に指定されている王塚古墳。日本を代表する装飾古墳です。そのテーマ館が王塚装飾古墳館（愛称／コダイム王塚）で、平成6年11月に開館しました。

館内では、石室や出土品のレプリカ（複製品）を中心に、関係資料を常設展示しています。ＣＧ映像による解説も楽しめ、石室レプリカは発見当時の鮮やかな壁画が再現されています。また、国内外の代表的な装飾古墳9基を5分の1の模型で展示しています。

王塚装飾古墳館は、古代と現代を結ぶタイムカプセルです。

※なお、毎年春と秋には、隣接する王塚古墳が特別公開されます。

王塚古墳玄室（レプリカ）



ご利用案内

- ●住所／福岡県嘉穂郡桂川町寿命376番地
- ●電話／0948-65-2900・FAX／0948-65-3313
- ●開館時間／午前9時～午後4時30分
- ●休館日／毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）・年末年始12月29日－1月3日
- ●交通アクセス
  - ・JR九州福北ゆたか線 博多駅から……………………約30分
  - ・「桂川駅」下車…………………………………… 徒歩約10分
  - ・九州自動車道 福岡ICより八木山バイパス経由…約40分
  - ・駐車台数　58台

●入館料

	個 人	団 体
大 人	310円	260円
中高生	150円	120円
小学生	100円	80円

※20名以上の場合は団体料金をご利用できます。

桂川の史跡を訪ねる

文化財

人々の有り様や息遣いが伝わる歴史・文化遺産

桂川町には、王塚古墳だけでなく、老松神社をはじめとする多くの史跡や文化財が残されています。町を歩くと、神社、寺院、石碑、塚、そして、昔話として語り継がれる巨石や祠（ほこら）などが、たくさん点在していることが分かります。それら一つ一つが歴史的、文化的意味をもっています。

神や仏に祈る庶民、汗水を流して田畑を耕した農民、地の底で命をかけた炭鉱労働者…。かつて、桂川町で生きてきた名もない人々の有り様や息遣いが、桂川町に残された史跡や文化財から伝わって来ます。

種因寺 境内古図

土師老松神社

近在有数の神社

古来、大国主神(オオクニヌシノミコト)を祭神として祀(まつ)っていたといわれています。醍醐天皇の延喜19(919)年に安楽寺(現在の太宰府天満宮)が建立。土師庄もその天満宮領のひとつであり、この時期に菅原道真公、吉祥女を合祀したと思われます。その後、土師老松神社は土師郷中の総鎮守として栄え、今日に至るまで近在有数の神社となっています。

種因寺

伝教大師が開く

弘仁元(810)年、伝教大師・最澄が開いたといわれています。

寺内にある本尊薬師如来像は七仏薬師のひとつで、伝教大師の作と伝えられています。建武3(1336)年、足利尊氏が田地や山林を寄進し、昔は寺領が多くありました。

一字一石塔

供養等の下に大量の経石

土師五区にある一字一石塔は、寛政10(1798)年、伝治という人が、釋浄喜を供養するために建立したといわれています。石碑の下には、法華経関係の文字が書かれた9335個の小石が埋められていました。(P22/C-2)

整理溝(杉ノ木井堰)

困難を極めた建設工事

明治年間、土師の東部は乾燥した低湿地で、農作に不向きでした。そこで、内山田に日の岡溜池を設け、杉ノ木井堰から取水しました。ここから現在の桂川東小学校あたりまで用水路を通しましたが、工事は困難を極め、犠牲者も多く出ました。(P23/C-3)

十三塚跡

土師氏の墓など諸説

土師と碓井との境に丘陵があり、そこを登ると「十三塚跡」という石碑が建っています。十三塚は土師氏の墓、13人の武士が切腹した場所、山伏が倒れ死んだところなど、諸説がありますが、現存すべてが消滅しています。(P23/D-3)

長明寺

他力本願の教えを伝える

開基・祐西は大谷本願寺第八代蓮如上人の弟子で、応仁元(1467)年、浦田に道場を開きました。長明寺の寺号は、御開山親鸞聖人の教えを長く明らかに伝えるために、文明14(1482)年に与えられました。(P22/C-2)

上嘉穂炭鉱跡捲上台座

数少ない炭鉱遺産

元上嘉穂炭鉱の跡地（現県営土師団地）にあります。炭車の運搬を行う施設である捲上機の台座です。昭和初期に造られたコンクリート製の小型のものですが、桂川町では、数少ない炭鉱遺産です。(P22/C-2)

豆田天満宮

神体は菅原道真の遺品

豆田はかつて、土師庄の中にあり、安楽寺(現在の太宰府天満宮)領でした。土師氏の土師連乙麿(ハジノムラジ・オトマロ)は、道真の没後、豆田川原に神社を建て、その遺品を神体として祀(まつ)りました。(P22/B-2)

土居老松神社

土師老松大明神の分身

当社は、11世紀に太宰府天満宮の神領であった土居庄に土師の老松大明神の分身を移し、土居老松大明神と称して氏神としました。その後、再興が繰り返されましたが、古来、武家の尊信が厚く、境内も広く、社殿も壮麗で、四季の祭典も厳重に行われました。(P22/C-2)

コウゴイシ

残る巨石伝説

上土師と内山田の境から西に山を登ると、山の斜面に沿ってコウゴイシと呼ばれる巨大な岩石が目に入ってきます。この石から殿様行列が出てくるという伝説がありますが、容易には近づけません。(P23/C-3)

平山鉱業所跡

最後まで残った炭鉱

平山鉱業所は、明治18 (1885) 年に松尾法幹によって初めて開削されたといわれています。その後、昭和に入り明治鉱業株式会社となり町内の主要炭鉱として操業を続けてきましが、昭和47 (1972)年に町内最後の炭鉱として幕をおろしました。(P22/C-2)

「後藤屋」と「豆田炭鉱の湯」

山頭火の体と心を温めた宿

さすらいの俳人・種田山頭火(明治15年-昭和15年) が､昭和6(1931)年12月30日から元日まで桂川町を訪れていたことが、日記「行乞記」に記されています。「長尾駅前の後藤屋に泊る、木賃二十五銭、しづかで、しんせつで、うれしかつた、躊躇なく特上の印をつける」「此宿は本当にいゝ、かういふ宿で新年を迎へることが出来るのは有難い」。長尾駅とは、現在のJR福北ゆたか線桂川駅のこと。また、「行乞記」には、「山家、内野、長尾といふやうな田舎街を行乞する、 冷水峠は長かつた、久しぶりに山路を歩いたので身心がさつぱりした、こゝへ着いたのは四時、さつそく豆田炭坑の湯に 入れて 貰つた」とあります。「一寒一温、それが取りも直さず人生そのものだ」と書く山頭火の体と心を温めたのは「後藤屋」であり、「豆田炭鉱の湯」でした。(P22/B-2)

瀬戸の渡し

参勤交代時の難所の一つ

江戸時代、泉河内川の川岸に「瀬戸の渡し」と呼ばれる渡し場がありました。参勤交代のため街道を往復する大名の行列もここから川を渡りましたが、川幅が10間(約20メートル)あり、川を渡るのは難所の一つに数えられました。(P22/C-1)

サヤンカミ

地域を守る「塞の神」

内山田天神社の社殿から一段低いところに石の祠(ほこら)があります。安芸の国からきたサヤという女が、内山田の村人の介抱の甲斐なく、疲れと飢えで死にました。この祠でサヤという女を祀るのが、サヤンカミといわれています。(P23/C-4)

比叡(ひえ)神社

七座の神を祀る

吉隈にある比叡神社は大国主命 （オオクニヌシノミコト）をはじめ、七座の神を祀っています。境内には、稲荷大明神、天満宮の石祠２基があります。また、石灯籠に「日吉宮」と刻まれていたことから、昔は「日吉宮」といっていました。(P22/C-2)

天神山古墳

王塚古墳との類似が顕著

豆田にある天神山古墳は丘陵上の前方後円墳で、王塚古墳の南東約700mに位置しています。盛土が赤黒二種類の粘土の積み上げによるなど、王塚古墳との関連が強いといわれています。(P22/B-2)

筑前竹槍一揆の門

門に残る一揆の傷跡

明治６年、「竹槍一揆」と呼ばれる百姓一揆が起こりました。福岡県全域の農民が参加する大規模な一揆に発展しました。土居の旧道沿にある門には、鍬（くわ）やナタを打ち込んだ傷の跡が今でも残っています。(P22/C-2)

内山田天神社

官公家臣の後裔が造営

かつて、人家も田畑もなく山林だった内山田の里。そこが開墾され人里になった後、松尾藤左衛門は先祖が菅原道真公の家臣であったことから、山尾に天満宮を造営し、朝夕家中が礼拝したと伝えられています。(P23/C-4)

追分碑

街道の分かれ道をしるす

福祉バス停「大楠」あたりに、長崎街道と秋月街道の分かれ道(追分)がありました。ここに追分碑が建てられ､「左秋月海道　右肥前海道」と刻まれていました。桂川町を通過する長崎街道は、元禄時代に一部変更されました。

吉隈鉱業所跡

町のシンボルだった大炭鉱

かつては、桂川町戸数の３分の１を占める大炭鉱だった吉隈炭鉱。最盛期の鉱員数は2000人を超えていました。しかし、エネルギー転換や安価な石炭輸入により、昭和４４年に閉山。現在は、社宅や関連する当時の建造物などがわずかに残っています。(P22/D-2)

寿命貴船神社

江戸時代の絵馬が残る

水の神であるタカオカミ・クラオカミを祭るのが貴船神社です。拝殿には江戸時代の式田春蟻による絵馬が残っています。また、境内には「庚申祭壇」と刻んだ石碑がありますが、建立の年月は不明です。(P22/B-1)

中屋簑島(みのしま)神社

境内に「庚申尊天」の石碑

サスラヒメノミコトを豊前の国簑島(現行橋市)に、祀ったと伝えられています。神社の境内には､宝永７(1710)年に建立された「庚申尊天」の石碑が残っています｡「庚申尊天」と刻まれた石碑は､他に比叡神社境内にあります。(P22/A-1)

土居の観音様

本尊・聖観音を安置

土居の旧道沿いに観音様があり、観音堂には、伝教大師作といわれる本尊・聖観音の2体が安置されています。お盆には境内で盆踊りが行われ、初盆の家はお位牌を持ち寄り供養しています。(P22/C-2)

秋月街道

秋月から長崎街道に合流

秋月から飯塚市（旧筑穂町）の弥山を通り町内の狩野へ抜け、それから土師・土居を通り、「瀬戸の渡し」付近で長崎街道に合流しました。(P22～23)

寿命の古墳群

多数の古墳が群在

金毘羅山と呼ばれる丘陵の頂上から裾部にかけて、大平古墳、宮ノ上古墳、茶臼山古墳など、前方後円墳３基、円墳十数基の古墳が群在しています。古墳群の南西台地からは、王塚古墳を望むことができます。(P22/B-1)

九郎丸貴船神社

菅原神などを合祀

祭神菅原神は無格社菅原神社として祭祀されていましたが、明治44(1911)年、水神の高龗神(たかおかみ)、闇龗神(くらおかみ) も合祀されました。神殿、幣殿、拝殿は大正3(1914)年、改築の許可がおりました。境内の面積は約800坪です。(P22/B-2)

桂川の伝統を楽しむ

獅子舞

福岡県指定
無形民俗文化財

渡り獅子が勇壮に舞う

土師の獅子舞は、嘉暦元（1328）年に、五穀豊穣と家内安全を祈願して奉納されたのが始まりと伝えられています。

舞は「渡り獅子」を表しているといわれ、雄獅子・雌獅子の2頭の獅子が、はるか唐（中国）から東シナ海の波涛を乗り越え日本に渡り老松神社まで辿りつく様子を表しているといわれています。

上土師地区と下土師地区が1年交替で行いますが、両地区の曲や舞には違いがあります。獅子舞では、1年間の農作業を表しているといわれる子供の廻り打ちが演じられるほか、上土師では勇壮な「杖つかい」、下土師では華麗な「鉦打ち」が子どもたちによって行われます。

この土師の獅子舞は、毎年、春と秋の土師老松神社の例祭で奉納される県下を代表する民俗芸能です。

お神楽

優雅に舞う土師老松神社の神楽

五穀豊穣や家内安全を願って奉納されるお神楽（かぐら）。桂川では、600～700百年前、土師で疫病が流行したため、悪疫防除を祈って舞ったのが始まりといわれています。そして、そのお神楽が伝統芸能として現在まで長く継承されています。老松神社の春の例祭では、獅子舞の後、舞台の上で舞い手が、「千代」や「久米」など22演目の緩急ある優雅な舞を演じます。

お神楽は昔、近村の神職らが互いに助け合って上演していました。しかし、明治時代の内務省令で神社の祭日が統一されたため、舞い手を集めることが難しくなりました。そこで、氏神の祭りは氏子自身の手でやろうということになり、大正11（1922）年3月、土師に神楽座「崇敬会（先祖をあがめ、神を敬う）」が発足。当時の大分八幡宮（筑穂町）の神職、井上栄氏の指導を受け、嘉穂神楽の一つとして発展してきました。それ以降、この神楽座によって、土師のお神楽が継承・保存されています。

事代

天孫降臨前段:香取・鹿嶋(弓と矢を持つのが鹿嶋　右が大己貴)

岩戸(手力男)

三韓後段:海神豊姫　豊姫　中臣

桂川の伝統を楽しむ

盆踊り

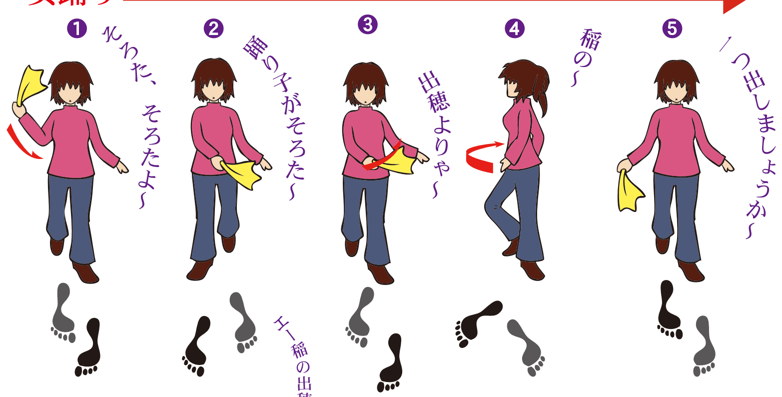
桂川町に伝わる盆踊りは地域によって様々です。土師七区にも、昔からその地域で生まれた踊りが受け継がれており、今も地域の人々によって守られています。

思案橋

五穀豊穣をご先祖様に祈ります

所作が男女で違い、振り付けは稲作の様子を表しています。女性はハンカチを持って稲を刈る様子を表現し、その刈った稲を男性が寄せて抱えるという一連の流れがあります。歌詞の中では、農村の日々の暮らしを、ユーモアをまじえて歌っています。

女踊り 進行方向→



❶稲を刈る様に上から矢印方向に下ろす。足は左足から出す。

❷左側に手を振る時に、右足を出す。
※❶と❷を2回くり返す

❸左側にもっと腕を振る、左足を出す。

❹右に、体を腕ごと矢印方向に振りながら右足を後ろにひく。

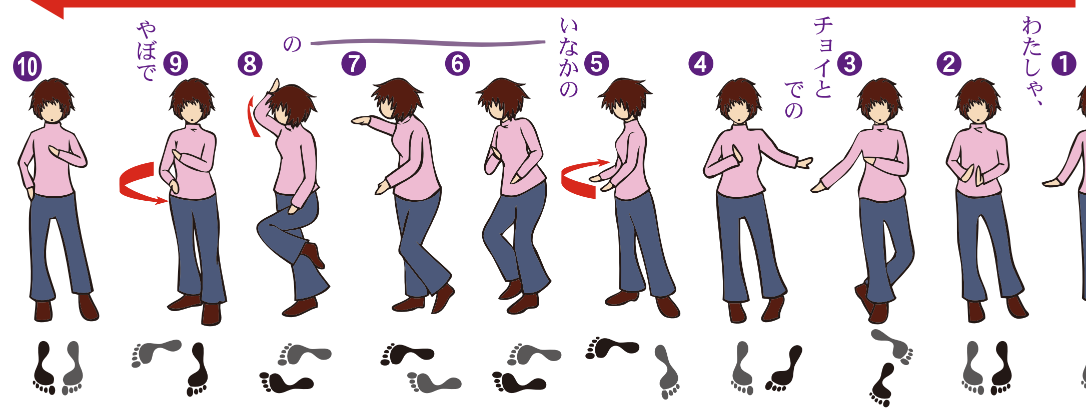
❺体を前に戻して❶から始める。

口説き

来世での安穏を願い踊ります

口説きは1人が歌い、それにあわせて皆が踊るという形式の踊りです。3種類の歌詞があり、目蓮尊者という歌が多く歌われています。内容は地獄に堕ちてしまった母を目蓮尊者という僧が救い出すというもの。ご先祖様が帰ってくるお盆の日に、来世での安穏を願い踊ります。

進行方向←



❶左足を上に上げる。

❷手を叩きながら、左足を下に下げる。
※❶と❷を2回くり返す

❸腕を右に払いながら、右足を前に出す。

❹腕を左に払いながら、左足を左側に出す。

❺体を矢印方向に向けて、右足を前に出す。

❻腕を左に払いながら、左足を前に出す。

❼腕を右に払いながら、右足を前に出す。

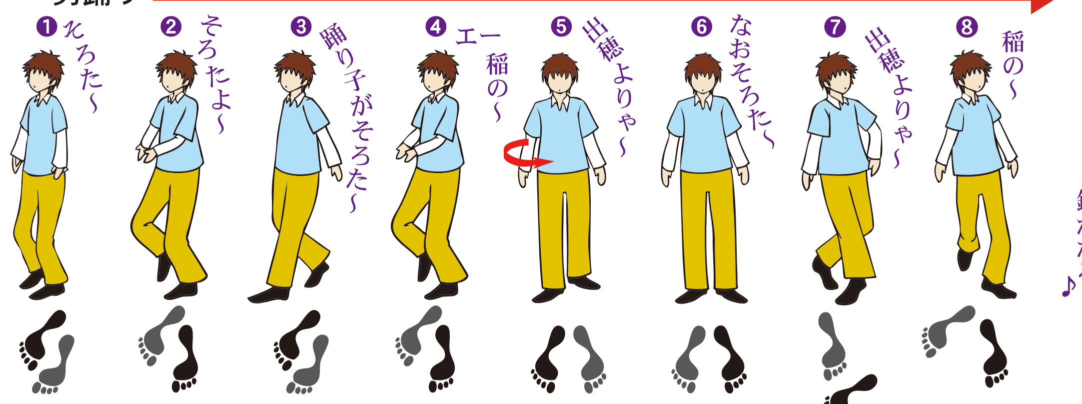
❽右腕を上に上げ、左腕を下げて左足を高く上げる。

❾上げた足を下げながら、矢印方向に体を内側に向ける。

❿右足を上げて足踏みをして❶の動作に戻る。

取材協力：桂川町土師七区の皆さん

男踊り 進行方向→



❶足は右足を後ろに下ろす。

❷両手を前に出し、稲を束ねる様な仕草をする。右足を上げる。

❸両腕を後ろにやり、右足を後ろに下ろす。

❹両腕を前にして手を叩く。右足を上げる

❺矢印方向に体を向ける。右足を後ろに下ろして左足をその場で足踏みする様に上げる。

❻左足を下ろす。

❼右足を前に出す。

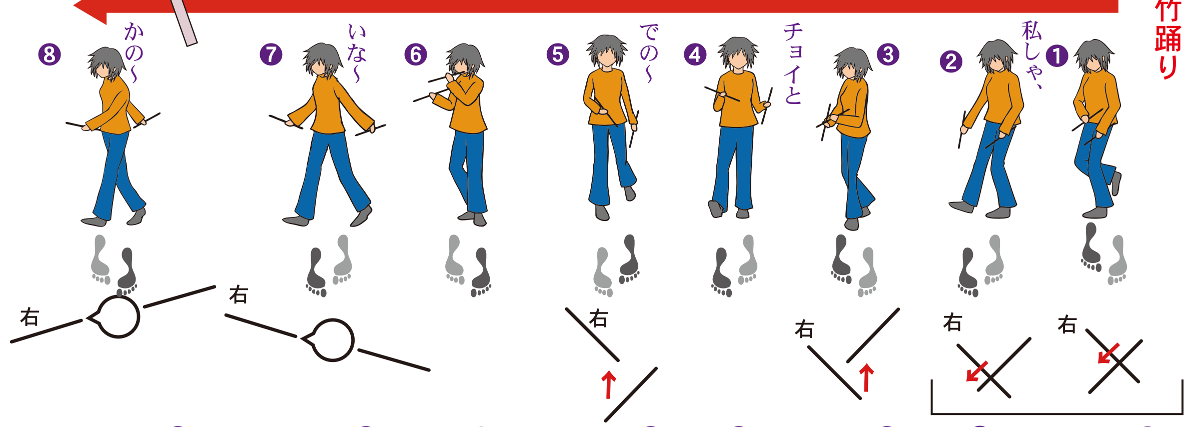
❽左足を前に出して、最初に戻る。

♪そろた、そろたよ、踊り子がそろた、
エー　稲の出穂よりゃなおそろた、
出穂よりゃ稲の。
一つ出しましょうか、やぶからささを、
エー　つけて、つけて下され、たんざくを、
くだされ、つけて。
南無阿弥陀仏、
エー　西の、西のや、お寺の、
鐘がなる。♪

竹踊り

♪ヨイトサッサノ ヨイヤサノサ
サアーヤレ、コラヤレ、なにからやろかーヨイトサッサノ ヨイヤサノサ
私しゃ、チョイと出の田舎のやぼでーヨイトサッサノ ヨイヤサノサ
田舎やぼにて、何にも知らぬーヨイトサッサノ ヨイヤサノサ
知らぬ中から、二言三言ーヨイトサッサノ ヨイヤサノサ
声も、もとより、文句もまずいーヨイトサッサノ ヨイヤサノサ
まずいところは、皆様方のーヨイトサッサノ ヨイヤサノサ
お手の振りまで、合わせてみましょぇうーヨイトサッサノ ヨイヤサノサ♪

進行方向←



❶右足を前に蹴るように出しながら、右の棒を、左の棒に上から下に矢印向に擦るように叩く。

❷※2回くり返す

❸左足を出しながら右の棒を下から上に左の棒を叩く

❹右足を出す

❺右足を出しながら左の棒で下から右の棒を叩く

❻左足を出す

❼右足を出した時に右手を前に出して前の列の人の棒を叩く

❽左足を出した時に左手を前に出して前の列の人の棒を叩く

※竹踊り(土師七区では、口説きの踊りに合わせて竹を持ち踊ります。これを「竹踊り」と呼んでいます。)

桂川の生活を伝承する

年中行事

先人たちの思いが現代によみがえる。

古(いにしえ)より伝承されてきた、桂川町の民俗芸能や祭事、風俗文化。五穀豊穣への祈りや感謝、信仰、家内安全、厄払い、供養などへの思いが相まって、今でも人々の暮らしに根付いています。

桂川町では、「老松神社の獅子舞」、「とへとへ」、「地蔵祭り」、「七瀬祭り」、「盆綱」、「もぐら打ち」、「かりおとし」など、年間を通して、地域ごとの多彩な行事が催されています。

長い歴史を積み重ねてきた桂川町。伝統芸能や祭りのある日は、町の人々が集い、語り、踊り、昔と心がひとつになります。そして、先人たちの思いや興奮が現代によみがえります。

■盆綱（吉隈三区・現在休止中）

綱引きで豊穣を占う

8月15日夜の盆踊りの後、かづらとわらで作った大綱を使って、男女対抗の綱引きが行われます。続いて、この綱で円形の土俵を作り、相撲大会が催されます。

■かっぱ相撲と山の神祭り（九郎丸）

山の神がかっぱになる

昔、松の大木の根元にあった石を神として祭ったのが始まりといわれています。山の神がかっぱとなって川を下り水の神になるという、いい伝えがあります。水難除けを祈願します。

■もぐら打ち（土居二）

早朝に地面を叩く子どもらの元気な声

14日未明に行われます。竹の先に藁（わら）を巻きつけた棒で、地面を叩き、土の中に棲むもぐらや害虫を追い払います。五穀豊穣や無病息災を祈願します。

■地蔵祭り（土居地蔵様）

幻想的なろうそくの灯り

平らに切った木を半円形にして土に差し、その木それぞれに、たくさんのろうそくを灯します。お地蔵様へ向かう道の両側には幻想的なろうそくの灯りが長く続き、「ろうそく祭り」とも呼ばれます。

■かりおとし（内山田）

神に供える灯火が参道を照らす

７月25日の夜、天神社の社殿から参道に御神燈をあげ、地元の人は夜お参りをします。他の地域の祇園祭にあたります。「この日、魚をとり酒宴を行う」と郷土史資料に記されています。

■とへとへ（上・下土師地区）

豊作を祈る来訪神

小正月の夜におこなわれます。来訪神が、家々を巡る信仰にもとづくもので、神に扮した里人が家々を巡り、そのおり水を掛けられます。

■お通夜（町内各地）

昇る炎で神を迎える

神無月と呼ばれる10月、出雲に出かける神さまを「送り」、「迎える」行事です。この日は、神社の境内で太鼓を叩き火を焚いて夜を明かしました。現在は、「迎え」だけをおこないます。

■盆踊り（町内各地）

夜空に響く太鼓の音

郷土芸能として、素朴な農民の間に歌い、踊りつがれてきた盆踊り。町内各地で行われ、昔ながらの「口説き」や「思案橋」という踊りも一部で見られます。

■七瀬祭り（土居一・二区・九郎丸）

稲の生育を願う水神の祭り

水が豊富で、稲がよく成育することを祈る祭りです。川に沿った七ヶ所で行われます。川のほとりに4本の竹をたてた祭壇が設けられ、神事が行なわれます。

桂川の生活を伝承する

郷土料理

●九郎丸の地鶏餡のおにぎり（約16個分）

（材料）

A 白米……………………５合
　鶏の煮汁…………３カップ
　しょうゆ……１／５カップ
　砂糖……………大さじ１
　塩…………………………少々
　酒…………………………少々
B 鶏肉（できれば地鶏）…５００ｇ
　砂糖……………………３０ｇ
　しょうゆ……１／５カップ
　酒……………１／５カップ

（作り方）

①鶏肉を一口大くらいのぶち切りにし、やわらかくなるまで煮込む。煮汁は別の容器に取っておく。鶏肉はＢの材料で甘く煮る。
②米を研（と）ぎ、Ａの材料を入れ、水５合の目盛に合わせて炊く。もち米を加えると、もちもち感が出てより美味しい。その場合は、白米：もち米＝１０：１だが、新米なら、白米だけでも可。味ごはんができたら、甘辛く煮た鶏肉をおにぎりの中央に入れてにぎる。

寄合時のごちそう

「九郎丸の地鶏餡のおにぎり」

昔の九郎丸は、純農村地帯でした。このおにぎりは、村の共同作業や寄合の際に出されたもので、簡単に調理でき、立って食べられ、器などの利用が少なくてすむという利点がありました。当時、肉や魚は貴重だったため、味ごはんの中に大きな鶏のぶつ切りが入っているおにぎりは、人が集まった時の特別なごちそうでした。明治40年代に嫁いできた女性が作っていたという話が残っていますが、それ以前、いつから食べるようになっていたかは不明です。平成16年に開催された「飯塚のおにぎりコンテスト」では、最優秀賞に輝きました。甘辛い鶏肉を包んだ味ごはんの食感が印象的です。

桂川の郷土料理

●だぶ（５人分）

（材料）

鶏肉……………２００ｇ	Ａだし汁（いりこ・昆布）・椎茸の戻し汁……………大カップ７
里芋……………１００ｇ	Ｂ薄口しょうゆ…大さじ２＋小さじ１
ごぼう……………６０ｇ	酒…………………大さじ１強
にんじん…………６０ｇ	塩………………………少々
こんにゃく………６０ｇ	Ｃ片栗粉……………大さじ１強
れんこん…………６０ｇ	水…………………大さじ１強
大根………………６０ｇ	生姜すりおろし…………適量
干し椎茸……………２枚	
厚揚げ…………１／４丁	

（作り方）

①だし汁は、いりこと昆布でとる。干し椎茸は、ヒタヒタの水で戻す。里芋は皮をむき、塩もみしてヌメリをとる。
②鶏肉は小さく切り、材料は全部小さめに切る。ごぼうとれんこんは切って水にさらし、さっと茹でる。
③鍋に材料とだし汁・椎茸の戻し汁Ａを入れ、弱火でコトコト、材料がやわらかくなるまで煮て、Ｂで味を調（ととの）える。
④水で溶いた片栗粉を、③の材料に少しずつ加えながら、トロミの加減をみる。生姜は好みで、食べる時に加える。

たっぷりの汁がトロリ

「だぶ」

だぶは、筑豊のほかにも、宗像、糟屋などで作られる福岡の伝統的な郷土料理で、冠婚葬祭の時などに食されます。具材は根菜を中心にしており、けんちん汁に似ていますが、トロミとして片栗粉あるいは葛（くず）粉を加えるのが特徴です。煮崩れるくらいまで煮込むと、鶏肉の柔らかさもあって、トロリとした食感になります。食べる時に、生姜の千切りを薬味として少し加えると、さらに味が引き立ちます。寒い季節には体の中から温まる一品です。なお名前の由来は不明ですが、汁がだぶだぶ（たっぷり）に入っているところから来たのではという説があります。

取材協力：桂川町九郎丸地区の皆さん

人びとの生活から生まれ、語り継がれてきた民話や伝説。
桂川ならではの、お話が語り継がれています。

火の玉と白馬（寿命）

豆田に杉の茂った天神様の山があり、昔からこの山と王塚古墳の山から火の玉が飛んで出てくるといわれていました。その火の玉の物すごさに、はじめはおもしろそうに見ていた人も、だんだん恐ろしくなって目をつむり、再び目をあけてみると、もう何もなくて、東の空が白んでいたそうです。この火の尾が長く引いたところから「長尾」の地名が出たと言い伝えられています。

桂川村で赤子の生まれた夜、女が二人、穂波川に洗濯に行きました。すると、りっぱな武士が金銀の飾りをつけた美しい白馬に乗り、西から東に川を渡り王塚めがけて駆け登っていきました。馬の通った後の空は、白布を引いたように明るくなっていました。村人はこの様子を聞いて、昔から塚の西と東に「放れ駒」という名の土地があることから、古墳の馬が遠乗りに出たのだろうと話し合いました。

止めが淵（中屋）

穂波川上流の中屋に、おとめというお手伝いさんがいました。おとめは、**器量も気立てもよく、近所の若者に評判でした。**ある時、村の金持ちの**ドラ息子**がおとめに一目ぼれしましたが、ひじ鉄砲を食わされました。ドラ息子はその腹いせに、おとめに泥棒の濡れ衣を着せたので、おとめは思い余って淵に身を投げてしまいました。村人はおとめの無実の罪に同情し、倉元山に墓を造って、おとめの霊を慰めました。おとめが身投げした淵は「おとめが淵」と呼ばれましたが、徳川末期には、この「おとめが淵」で大分(ダイブ)、北古賀、内野の**年貢米を舟積み**したため、「止めが淵」**となり、**米倉があったところが**倉元という地名に**なりました。

コウゴイシと殿様行列（上土師）

上土師と内山田の境に、俗称「コウゴイシ」という巨大な石があり、この**石の割れ目から殿様行列が出てくるといううわさがありました。**そこで、**あるもの好きな男が**「コウゴイシ」**そばの草むらに身をひそめて割れ目を見張って**いました。すると本当に小人の行列が出てきました。男はそのあまりもの美しさと怖さに身をすくめながらも、一番後から出てきた足軽の頭を落ちていた枯れ木でこつんとたたきました。そのとたん、足軽だけでなく殿様行列もすーと消え、チャリンという一文銭の音がしました。男は「もし殿様をたたいていたら、小判か大判が出てきたかもしれない」と残念がりました。

サヤンカミ（内山田）

昔安芸（あき）の国に住むサヤという女が、九州に旅してきました。ところが土師村まで来ると、飢えと疲れで動けなくなりました。そこで内山田の村人が哀れに思い、麦だんごを与えて介抱しましたが、女は死んでしまいました。村人はこの女をまつり、「サヤンカミ」と呼びました。麦だんごは牛にお供えするもので、サヤに与えられたのは実は牛のエサでした。サヤンカミは「塞の神」のことで村を守る神ですが、願をかければ下の病気が治るという言い伝えもあります。

なげ込みの井堰（内山田）

穂波川上流の内山田は、大水のたびに田畑が流れていました。村では人身御供を立てて井堰を作ろうと決めました。それを聞いた秋月の殿様は大そう心配され、家来の松尾忠左衛門に人身御供をたてずに井堰工事をするように命じました。忠左衛門は何度も失敗の末、大人数で川のまん中に大きな岩を投げ込み、ついに川をせき止めました。それからは井堰はくずれず、忠左衛門は殿様からほうびをもらったということです。

牛茂右衛門（土師）

土師に牛茂右衛門という力持ちの男がいました。ある日、秋月のお殿様が飯塚宿に行く途中、牛に小山のような草を積んだ牛茂右衛門と出くわしました。牛茂右衛門は、両手で牛の足を二本ずつ掴み、そのままグイと持ち上げて、そばの田んぼによけました。お殿様が名前を尋ねると、「土師の牛茂右衛門」と答えました。お殿様は「牛茂右衛門というからには人間でなく牛と同類だろう。牛に褒美をやっても仕方ない」と言って、そのまま行ってしまいました。力が強いのもほどほどでないと損なものです。

帳落ちの観音さま（土居）

ある時、たくさんの観音様が集まってそれぞれの席を決め、帳面にその所在地と名前を付けることになりました。ところがなかなか席次が決まらなかったので、面倒見の良い子安観音が一体一体を落ちなく席に付け、帳付けの仏様に記録させて納めました。やがて、帳付けの仏様も帰り、満足げに各観音様の席を眺めていた子安観音は、突然、青ざめました。なんと満席になり、自分が鎮座すべき場所がなかったのです。

中屋と寿命の地名の由来（寿命・中屋）

竜王山のふもとに鎮西上人という偉いお坊さんがいました。英彦山に願掛けに行くときには松の木を一本ずつ植え、願掛けの日にちを数えました。その松原が今の彼岸原（日数原）です。上人が英彦山に行かれる時には、いつも白い着物を着て夜中に発つので、「夜中に変な者が通る」と評判になりました。そこで、村の若者が正体を見届けようと、ある晩待ち伏せしました。若者は「それ！変な奴が通る」と後ろから上人に弓を射ました。しかし、不思議なことに、勢いよく飛んできた矢が、途中でぴたりと止まりました。中屋（中矢）の地名はそこからできました。上人は後でこの話を聞き「ああ、寿命がのびた」と喜んだので、寿命という地名になりました。

九郎丸の黒豹(ひょう)（九郎丸）

俗に「黒豹」と呼ばれていた神崎瀧五郎という力持ちの男がいました。あるとき飯塚より車力(荷車)に三俵の米を積んで運ぶ途中、小川がありました。瀧五郎はまず二俵をひょいと担いで渡し、次に車と残りの一俵を一度に担いで渡りました。付近の人が「その俵の中には何が入っているか？」と尋ねたら、瀧五郎は平然と「米です」と答えたといいます。相撲取りのような立派な体格で、東京相撲も盛大に行ったそうです。

桂川町案内マップ
0 200 400m
飯塚市
嘉麻市
長崎街道と古代ロマンを巡る
土居と秋月街道を巡る
土師の里を巡る
奥座敷 内山田へ足をのばす
Start A
Start B
Start C
Start D
中屋
寿命
瀬戸
豆田
土居
吉隈
弥栄
九郎丸
土師
平山
内山田
桂川駅
JR篠栗線（福北ゆたか線）
JR筑豊本線
至筑前大分駅
至博多
至原田
至飯塚市
至嘉麻市
至秋月
久保白ダム
中屋古墳群
蓑島神社
馬場島橋
王塚装飾古墳館
王塚古墳
寿命公園
桂川消防署
合鴨家族 古野農場
金比羅山古墳
寿命貴船神社
茶臼山古墳
宮ノ上古墳
大平古墳
小市郎様
瀬戸古墳群
一里塚跡
瀬戸の渡し
茶かすの地蔵
後藤屋敷跡
やぶれ屋
ふしぬき酒店
古野酒店
もぐら打ち
小追分石
豆田大日如来堂
土居菩薩堂
天神山古墳
豆田天満宮
善来寺保育園
宝塚古墳1・2号墳
九郎丸貴船神社
明寺原古墳跡
長崎街道
かっぱ相撲
山の神祭り
川波半三郎記念碑
桂川幼稚園
桂川小学校
桂寿苑
桂川町図書館
学校給食共同調理場
桂川中学校
桂川公園
桂川町役場
桂川町住民センター
筑前竹槍一揆の門
土居の地蔵様
地蔵祭り
土居の観音様
土居老松神社
桂川郵便局
けいせんとれたて村
桂川町人権センター
総合福祉センターひまわりの里
桂川勤労者体育センター
桂川町商工会
比叡神社
地頭屋敷跡
桂川町テニスコート
総合体育館
日隈古墳
盆綱
総合グラウンド
おおた酒店
天道工業団地
吉隈保育所
吉隈鉱業所跡
宮森神社
嘉穂総合高等学校
桂川東小学校
飯塚警察署桂川交番
三苫久米吉先生記念碑
弁財天様
ながせ酒店
天神祭り
浦田天神様
長明寺
スポーツ公園
グラウンド・ゴルフ場
全天候型ゲートボール場
第一町民グラウンド
八王寺横穴墓群
土師地区遺跡群跡
一字一石塔
耕地整理記念碑
上嘉穂炭鉱跡捲上台座
平山鉱業所跡
土師窯（窯元）
土師老松神社
土師老松神社春祭り
土師老松神社大祭
とへとへ
西田地区遺跡群
衛生施設組合 桂苑
西田清流公園
うみがらす工房 Jaunty Works
種因寺
土師保育所
和風ランプシェード瓜生
十三塚跡
狩野溜池
湯の浦森林公園
湯の浦総合キャンプ場
弥山岳（377.7m）
弓坂
長谷山（311.2m）
城尾城跡（※案内が必要）
コウゴイシ（※案内が必要）
県道桂川下秋月線
整理溝始点（杉ノ木井堰）
千代ケ浦溜池
県道才田筑前内野停車場線
至飯塚
内山田天神社
サヤンカミ
かりおとし
日ノ岡溜池
泉河内小学校
二ノ尾の大石
作の神の大石
投げ込みの井堰（※案内が必要）